

研究の経過と概要

1. 研究テーマ

「子どもが生き生きと学ぶ生活科」 ～地域とのかかわりを生かした活動を通して～

東山梨地区生活科教育研究部会では、県の目指す方向性の一つである、「身近な自然や人々、社会とのかかわる価値ある活動や体験」に重点を置いて研究・実践を進めている。

生活科の学習は、児童が自分とのかかわりの中で、身近な人々、社会及び自然に直接働きかけ、また、働き返されるという双方向の活動をめぐって展開される。見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど、直接対象とのかかわる活動や体験は、子どもたちの心を揺さぶり、気付きを深め、他の人に伝えたいという気持ちを育む。

教師が地域を知り、子どもたちの興味や関心、思いを生かしながら、充実した体験や活動を仕組み気付きを促すことで、さらに子どもたちは新たな疑問や驚きを発見し、生き生きと学ぶことができると考えこのテーマを設定した。

2. 研究の具体的な内容と方法について

- 地域とのかかわりを生かした活動についての情報交換を行い、授業実践に生かす。
- 授業研究を通して「子どもが生き生きと学ぶ生活科」について研究を深める。
- 講師を招聘しての学習会や臨地研修を通して実践力を高める。

3. 生活科部会年間計画 回月 日内 容研究 成果 1 5月 8日(水)・役員、授業者の決定

共同授業研究や実践紹介等・研究テーマについてを通して研究を進めていくことを確認した。

5月11日(土) 春季県教研 2 5月22日(水)

- ・春季県教研の還流報告

今年度の研究の方向性及び・今年度の研究について

具体的な内容を確認し、年間の見通しをもつことができた。 3 6月12日(水)

- ・今年度の研究の確認

子どもたちの気付きを深め・実践紹介 1名

るのに、マイベジサポーター「マイベジ・マイフラワーの実践」

の方との関わりが大きかったことなどが報告された。 4 7月25日(月)

夏季学習会

講師を招き、玉宮小の近く・臨地研修

にある水神池で、池や森に住「自然観察の実践」

む生き物の観察や、子どもたちも楽しめるネイチャーゲームなどを行った。 5

8月28日(水)

学習会

講師を招いての学習会を行

った。子どもたちが主体的に活動した実践を紹介していた。

研究授業案検討

実際に体験することから生・「いろやかたちたくさんみつけた」まれる気づきを大切にして授 ～あきとあそぼう～業を作っていくことが確認された。 6 9 月 18日（水）

秋季教研

「楽しく遊んだ」で終わら・実践紹介 1名
ないためには、めあてをもつ 「きせつともだち」
て活動に取り組みさせることが・秋季県教研に向けて
大切である。

・研究授業案検討 県教研に提出するレポートについて話し合った。また、研究授業の指導案検討も行った。 10月19日（土）・20日（日） 秋季県教研 7 11月27日（水）

・授業研究 8 1月15日（水）・実践紹介 2名

・県秋季教研の還流報告 9 2月 5日（水）・実践紹介 5名 10 2月12日（水）

冬季教研

・今年度の成果と課題

4. 共同研究者

指導・助言	武井 麻子（玉宮小）		
部長	中村 悦美（加納岩小）		
副部長	岩下 亜希子（後屋敷小）		
部員	益田 芽央 竹川 寛 藤井 理奈（加納岩小）		
	武井 美奈子（日川小） 山下 史江（祝小）		
	梶原 裕子（岩手小） 田邊 真由美（玉宮小）		
	大島 めぐみ（神金小） 赤荻 美弥（八幡小）		
	新藤 亘（塩山南小）		

第2学年 生活科授業案

加納岩小学校 中村悦美

1 単元名 「いっしょにいと あんしん」

内容 (2) 家庭と生活
(8) 生活や出来事の交流
(9) 自分の成長

2 単元について

家庭は、ほとんどの子どもたちにとって安心して過ごせる場所である。しかし、2年生の子どもたちの意識は自分の生活が中心で、家族がどのように支え合い生活しているかを感じとることは難しい。この単元では、家族の仕事調べをすることで、家族の一人ひとりが仕事を分担して生活していることに気付かせるとともに、家族の一員として、自分にできる仕事を考え、日常的に取り組ませたい。そして、いろいろな仕事を担ってくれている家族に感謝の気持ちをもたせるとともに、家庭という生活の場で自分も自分の役割を果たすという達成感を味わわせたい。児童が頑張った仕事に対し「ありがとう」「助かったよ」など家族からの賞賛をもらうことは、児童の自己肯定感を高めるとともに、これからも仕事を継続して頑張ろうというモチベーションを与えてくれると考える。

ただ、最近の子どもたちの家族構成や家庭の様子は様々である。学習の内容や家庭に依頼する事柄については、事前に学年便り等で家庭に知らせておくとともに、いろいろな家庭があることを児童がありのままに受け入れられるように配慮しながら学習を進めたい。

また、他教科との関連として、道徳の内容項目B「家族など日頃世話になっている人々に感謝すること」、内容項目C「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと」「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどして家族の役に立つこと」などと関連した学習を進めることで、更に価値のある活動にしたいと思う。

3 児童の実態

女子18名、男子12名、計30名のクラスである。(その内1名はあおば学級在籍)活発な児童が多く、落ち着いて物事に取り組むことが苦手な児童も数名いる。係活動や当番活動には比較的よく取り組むが、仕事を忘れて声かけられないと活動できない児童が固定化しつつある。

これまでの家庭での仕事経験についてアンケートをとったところ、「毎日決まった家の仕事をしている」と答えた子が10名いた。他に13名の児童が「時々する」と答え「まったくしていない」と答えた児童も7名いた。全体的には、毎日自分の仕事にしっかり取り組んでいる児童は少ない。また、家の仕事は「言われたらする」児童が多く、進んで「自分からする」児童は10名だった。

生活科家の仕事アンケート

1 おてつだいは すきですか。

すき 7名 ふつう 13名 きらい 4名

2 おてつだいを すすんでやっていますか

じぶんからする 10名 言われたらする 19名 言われてもやらない 1名

3 うちで おてつだいをしていますか。

している 23名 していない 7名

毎日きまったおてつだいをしている 10名

- ・食器を並べる 4名・カーテンをしめる・ポストを見る
- ・電気をけす・おふろそうじ

時々おてつだいをしている 13名

- ・お料理の手伝い 4名・お風呂洗い 2名・金魚のえさやり
- ・皿洗い・料理を運ぶ・洗い物・洗濯物はこびり ・弟妹のめんどうをみる
- ・ふとんをならべる ・くつあらい ・げんかんそうじ ・洗濯物をたたむ

4 単元の目標

家族との様々なかかわりや仕事の様子、自分のためにしてくれることなどを考え、感謝の気持ちをもつとともに、自分のできることを考え実行することができる。

5 評価規準

生活への関心・意欲・態度	家族のことや自分でできることなどについて関心を持ち、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活しようとしている。
活動や体験についての思考・表現	家庭生活やそれを支えている家族のことについて調べたり、家族の仕事を体験したりすることにより、家庭生活や家族のこと、自分がこれからできることなどについて、自分なりに考えたり、工夫したり振り返ったりして、それを素直に表現している。
身近な環境や自分についての気付き	家庭生活には、家族一人ひとりの果たしている仕事や役割があることや、自分がこれまで家族によって支えられて成長してきたことがわかり、家族の一員として自分ができることや自分がすべきことに気付いている。

6 指導と評価の計画 10時間 + 家庭での活動

小単元名	主な学習内容	評価規準	評価方法
<p>かぞくの しごと しらべたよ (2時間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 家の人の仕事を調べて、家の人について考えることができるようにする。 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・単元扉の絵から家の中の仕事には、どのようなものがあるか考える。 ・自分の家の中の仕事や、その担当者について調べる方法を知る。 (1時間)	【関】誰がどんな仕事をしているか見つけようとしている。	つぶやき 発言 ワーク シート①
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習として調べたことを友だちと伝え合う。 ・家庭での自分の役割が少ないことに気付き、自分ができることがないか関心をもつ。 (1時間)	【思】調べたカードをもとに、友だちと交流することができる。 【気】家にはたくさんの仕事があり、家の人が自分のために、たくさん仕事をしていてくれることに気付いている。	ワーク シート②
<p>じぶんでも できるかな (6時間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 家で調べてきた仕事から、自分にできそうな仕事を見つけ、進んで行うことができるようにする。 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から話を聞き、自分にできそうな仕事を見つける。 	【関】【気】自分も家族の一員であることに気付き、自分ができることについて考え、行おうとしている。	ワーク シート③
	「お手つだい大きくせん」 冬休み中自分にできるお手伝いをする。		ワーク シート④
	「おしごと大きくせん」 10日自分のしごとに挑戦する 1/12日 ~ 1/21日		ワーク シート⑤
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「おしごと大きくせん」を友だちに紹介する練習をする。 (2時間)	【思】聞く人に分かりやすいよう考えながら練習する。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が挑戦した仕事を友達に紹介する。(4時間) <p>※本時は4時間の内の4時間目</p>	<p>【思】教えてもらった仕事を、家族がしている工夫などと一緒に、友達に紹介している。</p> <p>【思】友だちの発表の良さに気付いている。</p>	<p>発表 実演 ワーク シート⑥</p>
<p>ありがとうをつたえたい (2時間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家の人に対して、感謝の気持ちをもって、自分も家族の一員としてできそうな仕事を見つけて、進んで仕事ができるようにする。また、自分の生活を見直し、自分のことは自分でしようとする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で自分ができること(自分のことと家庭のこと)を分けて考え実践しようとする。 ・これまでの活動を振り返り、家族への感謝の気持ちをもつ。 ・家の人への支えがあって自分の生活があることに気づき、感謝の気持ちを手紙などで表す。 	<p>【関】具体的に考え実行しようとしている。</p> <p>【思】【気】家の人にしてもらっていることの多さに気づき、感謝の気持ちを表している。</p>	<p>ワーク シート⑦ 発言 手紙 プレゼント</p>

7 本時の展開

(1) 日時 平成31年2月6日(水) 14:00~14:45

(2) 場所 加納岩小学校 2年1組教室・廊下

(3) 本時の目標

- ・自分で取り組んだ仕事の様子や、取り組んでわかったことを発表する。
- ・友だちの発表を聞き、そのよさに気付く。

(4) 展開

流れ	主な学習内容	指導上の留意点□ 評価■
つかむ 3分	<p>○前回の発表を振り返り、今日のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おしごと大作せんはっぴょう会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく はっぴょうしよう ・しっかり聞いて よいところを見つけよう </div>	
活動する	<p>○7人発表する。 仕事の順番や方法、上手にするためのコ</p>	<p>□発表の仕方、発表の聞き方を確認する。</p>

35分

ツ、体験した後の感想などを発表する。

そのうち2つの仕事について実際に、こ
つを聞きながら体験してみる。

- ①おさらあらい (実演)
- ②りょう理 (ビデオ)



- ③カーテンあけしめ (写真・実演)
- ④お風呂そうじ (写真)
- ⑤そうじきをかける (写真)
- ⑥しょっきあらい (写真・ビデオ)
- ⑦くつならべ (ビデオ)

○友だちの仕事を体験する

※教室・・・お皿の洗い方 拭き方
(一斉に行う)



※廊下・・・くつを揃える
(5カ所で行う)

■自分で取り組んだ仕事の様子や、取
り組んでわかったことを発表するこ
とができる。

■友だちの発表を聞き、そのよさに気
付くことができる。



○友達を発表を聞いて気がついたことや
思ったことをワークシートに書く。

□友達を発表の良いところや、発表を
聞いたり体験したりして気付いたこ
とを書く。



まとめ
7分

(5) 評価について

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C Bに達しない児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で取り組んだ仕事の様子や、取り組んでわかったことを、わかりやすく発表することができる。 ・友だちの発表を聞き、そのよさに気付くとともに、自分の活動に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で取り組んだ仕事の様子や、取り組んでわかったことを発表することができる。 ・友だちの発表を聞き、そのよさに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に発表練習を繰り返すを行い、自信をもって発表できるようにさせる。 ・発表を聞くときの視点を明確にする。

8 この単元で取り組んだワークシートと児童の記述

いっしょにいるとあんしん①

どんなしごとがあるかな

(名前)

家の中のしごとには どんなしごとがありますか。

いへのそうじ
 ・せんたく
 ・りょうり
 ・かいもの
 ・あふろ
 ・ゴミすて
 ・あくりむかえ
 くつならべ
 金魚のそうじ(えさ)
 トイレそうじ
 あふろそうじ
 じゆきのあらいもの
 ぞうきんかき
 いろいろがけ
 くさとり

ワークシート②-1

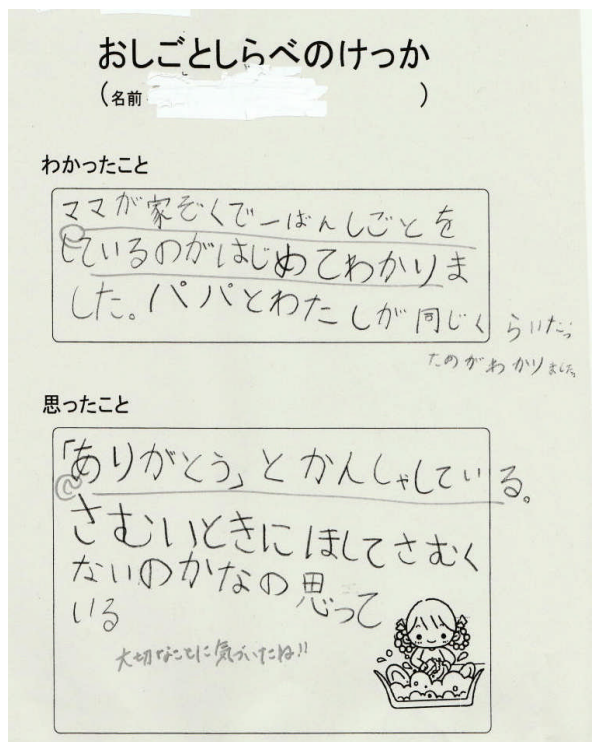
いっしょにいるとあんしん②

だれがどんなしごとをしているかしらべよう

(名前)

家の中のしごと	やっている人
りょうり	おかあさん
そうじ	おかあさん
買い物	おかあさん
車あらい	おとうさん
せんたく	おかあさん
ゴミ出し	おかあさん
トイレそうじ	おかあさん
あふろそうじ	おかあさん
くつならべ	おかあさん
ふとんしほ	おかあさん
カーテンあけい	おかあさん
小さい子のせわ	おかあさん
じゆきならべ	おかあさん 自分
しかんかんしほ	おかあさん
新聞をとりにいく	おかあさん

ワークシート①



然おかしいことではないと話しておいた。

ワークシート②-2

家にはどんな仕事があるか、生活科の時間に考えさせた。(W①) いくつもワークシートに書ける子もいれば家の仕事を3つくらいしか書けない子もいて、普段生活していても周りの様子に気付く力に差があることが分かった。黒板にみんなの意見を書くことで「仕事がたくさんある」ということを共通認識できた。

次に、その仕事を家の誰がしているか、宿題で調べさせた。(W②-1) 本クラスにも母子家庭が何件かある。その子たちが辛い思いをしないよう、家族の人数は3人とか6人とかいろいろだが、それぞれ違うのはあたりまえで、全

実際に調べてみると、自分以外の家族がいろいろな仕事を分担していること、仕事をしている人が偏っていることなどがわかった。初めて気付いた事実に、驚いたり家族に感謝したりしている様子が見ええた。(W②-2)

- こんなにおしごとがあつて びっくりした。
- まい日 いろいろな仕事をしてくれてすごいな。
- お母さんのしごとが いちばん多かつた。
- つめたい中にせんたくすると、さむいなどおもつた。
- しごとからかえつてきて つかれてからよるごはんをつくつてくれて ありがたいなつて思つた。

ワークシート③

これまでのワークシートを振り返りつつ、「何かみんなにできることはないかな」と問いかけた。

「何かできることをする。」

「お手つだいをする。」

「せんとくものを たたむ。」

「わたしがお手つだいするとママがよろこぶよ。」
など、自分たちで何かしようという意見がたくさんでた。そこで、「じゃあ おしごとと大きくせん」に挑戦しようと子どもたちに提案した。

保護者には、事前に学年部会やお便りで協力をお願いしておいた。仕事の選定にあたっては、取り組みが終わっても継続して頑張ってもらえるようお願いをこめて


①毎日できるもの

②無理なくできるもの

を子どもたちと一緒に考えてもらうようお願いした。(W③)

いっしょにいるとあんしん③

おしごと大きくせん!!
(名前)



ちょうせんしてみたいしごとを 5つ書こう

カーテンあけしめ
くつならべ
はしならべ
しんぶんをとりにいく
ふくたたたむ

お家の人とそうだんして しごとをきめよう!!

きまったしごと
カーテンあけしめ

どのしごとをしたい理由を書こう。

これだと毎日できると思ったしママ
やおはあちゃんかいつもやってるけどわたし
しごとしたらママとおはあちゃんがうらくなる
と思ったから。

 おはあちゃんかママは毎日2人とも
らくにできると思うよ!!

いっしょにいるとあんしん⑤


おしごと大作せん(名前)

家ぞくの一人として せきにんをもって しごとをしよう!!

自分のしごと **カーテンあけしめ**

しごとのしかた

- ①あさおひさまがでてからカーテンをあける
- ②あけたカーテンはひもでしっかりしめる
- ③ゆうがたカーテンのひもをとる
- ④くらくらならうちにカーテンをしめる



じょうずに しごとをするコツ

こうすると きれいにできる こうすると すばやくできる!!

教えてもらったコツ

朝あかくなつた時にカーテンをあけておひさまの光をいれること。あかくなるまえにカーテンをしめておくやのあたりにくきをにかけないようにすること。

自分で考えたコツ

カーテンをしめたりあけたりする時ぶんぼうにするとなりがたつからゆっくりしていぬいにすること。

カーテンあけしめしめたいするりやがよわりす。

自分のしごと **カーテンあけしめ**

しごとをしたら顔をかがう!

	よくできた		できた		

12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)	16日(水)

5日間のほんせい

あさおひさまの光をいれること。あかくなるまえにカーテンをしめておくやのあたりにくきをにかけないようにすること。

お家の入から

最初は、声もなつていなくて、だんだん自分でもあかくなる前にあけておくやのあたりにくきをにかけないようにすること。

先生より

だんだん自分であかくなる前にあけておくやのあたりにくきをにかけないようにすること。

17日(木)	18日(金)	19日(土)	20日(日)	21日(月)

10日間しごとをして思ったこと 考えたことを書こう

毎日わすれずにおしごとをするということはとてもたいへんなことだったのでお母さんやおばあちゃんはとてもすごいと思いました。なのでこれからもおてつだいをいれたいです。

お家のひとから 「毎日毎日 おうちの人はいろいろはしごをしていろいろなことをやってくれるね。」

朝、朝早い時や夕方、テレビを観ている時にも、カーテンあけしめは自分の仕事でやっています。がんばってくれました。ありがとう!!

10日間のチャレンジであったが、仕事に対するモチベーションが保てるよう、5日目に保護者にコメントを書いてもらい一度提出してもらった。(このコメントも、励ます言葉や褒める言葉を中心に書くようお願いしておいた) ほとんどの子が、とてもよく頑張っている様子がわかった。

〈10日の作せんを終えて 子どもたちと保護者の感想〉()は保護者

- ふくたたみ・・・もうちょっとゆっくりたためばよかった。でも、とてもじょうずにできて、たのしかった。(自分の洋服をたたんで片付けられるようになったね。学校にもって行く物も自分でたためるようになってすごいね。)
- げんかんはき・・・さいしょは何にも考えないでやってたけど、あとからいろいろくふうしました。きれいにできました。(やる気にムラはあったけど、ていねいにやってくれました。ありがとう!)
- ごはんのようい・・・むずかしかったことは、あいてのむきにはしをならべることです。ママに「じょうず」とほめられたので、うれしかったです。(10日間のおしごと大作せんで、ごはんのよういが上手にできるようになりました。○○がおしごととしてくれると、ママはとてもたすかります!!)

ワークシート⑥

いっしょにいるとあんしん⑥

「おしごと大作せん」はっぴょう会
(名前)

友だちのはっぴょうを聞いたり、体けんしたりしてわかったことや、自分もやってみたいと思ったことを書こう。

1月 29日	みんなのしごとのすべいといろいろなことに
はっぴょうしてくれたみんなのおしごとの	
すべいといろいろなことに	
たいへんなところやこつがよかったです	
たおるを引まいたすごいと思った。もうこのせ	
わはたいへんなのとつづりかれていますごいと思	
た。おふろそうじはいろいろするのにすごいなと思	
つなぐやむすかしいのすごいなと思	
1月 31日	みんなのしごとのすべいといろいろなことに
ちゃんのおふろをたみかたはじめてして	
すごいと思つた。げんかんそうじをどかした	
てすごいと思つた。ほかのみんなもたい	
へんなおしごとですごいと思つた。わたしも	
うようせんたいです。	

〈子どもたちが選んだ仕事一覧〉

玄関はき	5	くつをそろえる	5
お風呂洗い	4	洗濯物をたたむ	4
皿を洗う・ふく	2	カーテンしめ	2
新聞取り	1	ごはんようい	2
妹弟の世話	1	掃除機をかける	1
布団を敷く	1	料理	2

〈発表会の感想〉

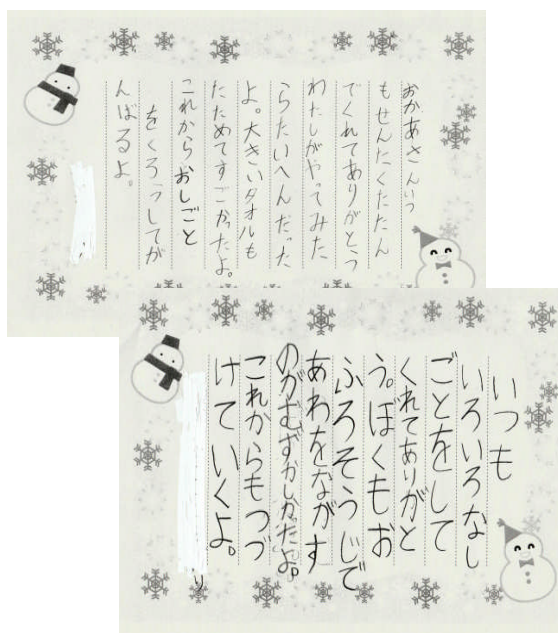
- ・〇〇ちゃんの妹のせいで、わたしがわからなかったことを話してくれたのでよかったです。わたしも弟がいるので、まなべてよかったです。弟にしてあげたいです。
- ・はかないくつがたくさんあるので、〇〇さんみたいにせいとんしてみたいです。
- ・タオルをたたむのに、そんなくふうがあるなんて、はじめて知りました。
- ・みんなのおしごとが よくわかった。くつなら

べで かかととつまさきを きちんとそろえて はきやすくしてすごいと思つた。

〈感謝の手紙〉

「おしごと大作せん」の取り組みは「楽しかったけど、大変だった」というのが子どもたちの本音だった。実際に体験することで「こんなたいへんな仕事を、毎日家族のみんながしてくれている。」ということを実感できたようだ。

「お仕事をしてみると、楽しいけどいろいろ大変だっただね。お家の人に何か言いたいことある。」と問いかけると「ありがとうって言いたい。」「かんしゃしたい。」「もっといっぱい仕事をしたい。」などの言葉が聞かれた。「じゃあ、みんなのありがとうの気持ちをどうやって届けようか・・・。」と尋ねると、お手紙・折り紙・肩たたき券など、教科書も参考にしながらいろいろなアイデアがでてきた。そこで、お手紙かプレゼントのどちらかで（両方も可）、プレゼントの人は感謝の言葉とともに渡すということになった。



9 実践を終えて

〈成果〉

- ・いろいろな仕事に挑戦し、全員が家族の一員としての役割を果たし、保護者から賞賛のコメントをもらうことができ、その子なりの達成感が得られたと思う。
- ・発表の仕方は子どもたちのアイデアを優先したかったが、これまで経験した物の中からしかアイデアが浮かばなかった。「こういう方法もあるよ」と一緒に考える中で発表の仕方を工夫し、仕事の内容やコツが伝わるようにした。実演の方法、VTRを使った紹介など、次の発表につながればよいと思った。
- ・いろいろな発表方法があったので、聞く方も集中していた。自分のやり方と比べながら聞いたリ、良いところを見つけながら聞いている子が多かった。
- ・子どもの素直な思いが表されていた。
- ・体験したからこそ分かること、気付くことがたくさんあった。また、友だちの発表を聞いて、「それにも挑戦してみたい」という新たな意欲も生まれた。
- ・10日間体験を繰り返すことで、やり方の工夫など気付きが深まった。
- ・お互いの仕事の様子を伝え合うこと、実際に体験してみることを通し、気付きを共有することができた。

〈課題〉

- ・時間的な制約もあったが、教師は子どもたちの発表に関して、一人一人肯定的なコメントを言った方が良かった。
- ・「すごいと思ったことはありましたか。」などの問いかけがあると、評価につながったのではないか。
- ・自分の発表はどうだったか、発表についての自己評価があっても良かった。
- ・それぞれの発表毎に質問が一つずつだったが、もう少しあっても良かった。そのやりとりの中で気付くこともあったのではないか。
- ・10日間の取り組みが終わっても、継続して仕事ができただけの子は半数であった。もっと、声をかけるなどして継続を促したかった。
- ・家庭の協力が得やすい家庭と難しい家庭がある。

〈その他〉

- ・自分の思いをうまく文章に表せない子もいる。生活科は国語ではないので、子どもの素直な表現を優先し、文を書き直さなくても良いのではないか。